

戦争時代を生きて、今想うことは

— 須田稔の想いを重ねて —

1945年15歳の女学生の夜

焼夷弾空襲に遭い 徹夜で消火

朝 学校工場へと焼け跡の中

昨日まで生きていた人も犬猫も死体に

ちぎれた脚が電信柱にぶら下がり

でも 必死だったから怖くなかった

洗脳された軍国少女でした

疎開して青森の学校で 眼にしたのは

満開の桜の大樹 青々とした根元の草

「ああ 木も草も生きている わたしもだ」

この感動は一生忘れません

凄惨な体験を 70歳を超えるまで

詳しくは語りませんでした

思い出して苦しくなるからです

でも 語らなければと思うようになりました

体験者が減り 改憲を叫ぶ政治家が増え

戦争の足音が聞こえてくるようです

絶対に過ちを繰り返してはならないのです

劇団民芸代表で俳優の**奈良岡朋子**さん語る

7月28日『しんぶん赤旗 日曜版』

人間として生きてきた歴史を感じさせる作品

8日放送の「マンゴーの木の下で」ルソン島

戦火の約束」で戦中・戦後を生きぬいた奥田

凜子を演じた**岸恵子**さん11日で87歳

「人間は忘れてはいけないものまで忘れる

特に日本人は だからこそ「戦争の悲惨さを

映画やドラマで伝え続けることが大事なの」

8月4日『毎日新聞』「日曜くひびく」。

学校で兵隊上がりの先生が みんなに質問

「大きくなったら何になりたいか」

「陸軍大将」「海軍大将」…順番が来て ぼく

「役者」と言うと「前に出る」と怒鳴られ

殴られました 軍人賛美の時代でしたね

1945年の神戸焼夷弾大空襲 無数の黒焦
げの死体 素手で遺体運び 戦争は人間を鬼
に変えるのです

選挙の時街頭でマイクに笑いながら「政治？

関心ない」と答える若者たち

ほんまは恥ずかしい事なんやけどなあ

政治家が本当に国のこと思うなら

戦争を避けるよう 避けるようにしていかな

いと 戦争の悲惨さを 僕はこの目で見てき

たのだから

戦争は人間を鬼にする と**大村崑**さん88歳

8月16日付『毎日新聞』夕刊「特集ワイ

ド」。

僕は子供だったけれども戦争末期の時代を生

きてきた。でも、今の政治家は戦争の実態を

知らず、頭の仲で考えているだけ。自分は戦

争に行かなくて済む。ということを前提にし

ているのではないでしょうか。（怒りがつつ

つと湧き上がってきたようだ）

僕ぐらいの生き残りはあまりいないから、

言うべきことは言わないといけない。

戦争には殺される恐怖だけでなく、殺す恐

怖もある。…ベトナム戦争で、相手を殺した

米兵がトラウマに陥りました。そこから厭戦

思想や反戦思想が出てきた。そこで敵を殺す

現場を見ないですむドローンや無人飛行機が

開発され、モニターを見ながら遠隔操縦で攻

撃。今、戦争は人を見なくても殺せる方向に

進んでいる。（人間対人間の世界を希求するの

です。）と語る脚本家・**倉本聰**さん84歳。

8月2日付『毎日新聞』夕刊「特集ワイド」。

宇治高齢者福祉を進める会の会報には、

この全文は無理でしょう。

奈良岡さん、岸恵子さん、大村崑さん、

倉本聰さんの、お二人を選んで下さい。